

## 「家族でぶらっと六甲散歩」の推進

堂馬英二

(六甲山を活用する会)

### 1. 六甲山上は散歩が似合う別天地

本年晩秋に「家族でぶらっと六甲散歩」モニターツアーを3回開催し、7家族22人が参加した。六甲山上ではほぼ平坦な山道や道路を約2時間周回する「六甲山頂・森と歴史の散歩道」で、静寂の山道や森を散策し、江戸時代の野仏や昭和初期の歴史にも触れた。市街地から30分で日常生活と一変する別天地だと家族で感激していた。幼児を持つ家族は、「登るのは険しい。観光施設でお金がかかる」という「近くて遠い六甲山」のイメージが強い。「散歩道」は六甲山に親しむきっかけにできると勇気づけられた。山麓の家族や高齢者などに四季の散策を楽しむような習慣が広がるのを期待している。散歩者を増やすために、山麓の市民を対象に「家族でぶらっと六甲散歩」の月例体験ツアーなどを運営する予定である。対象地域が家族連れで賑わうようになれば、昭和初期に「六甲山銀座」として賑わった地域が復活するための一石を投じることにもなる。



「家族でぶらっと六甲散歩」  
キャンペーンチラシ

### 2. 六甲山上での環境活動に新たな指針

六甲山上の記念碑台周辺を拠点に、環境保全・整備活動、環境学習・生涯学習支援の活動を重ねて12年目になる。5年前に雑木林1.2haを借用して、アセビ伐採による森林回復調査に取り組んだことが転換期だ。対象地域を「まちっ子の森」と名づけて景観整備し、六甲山麓の学童や家族が六甲山の雑木林に親しめる自然体験や環境学習のフィールドにしている。アセビ伐採の追跡調査は4年目で、六甲山の「森の手入れ」を目指す森林整備の参考事例にもなってきた。

2年前から森林ボランティア活動として、近畿自然歩道の不安全個所の補修を行っている「六甲山頂・森と歴史の散歩道」の整備と活用が、これまでの環境活動の到達点といえる。六甲山ホテル裏道の補修・整備など、旧サンセットロード約1キロの改修を終えた。通行者から「きれいになった。安全になった」と感謝の声を寄せられ、地域貢献の手応えを実感している。さらに、「六甲山ふれあいまちづくり協議会」に当会の活動を報告して「散歩道」づくりへの協賛をお願いするなど、地域コミュニティとの連携にも一歩踏み込んだ。



補修した階段部分を降りる  
保育園児の一行

### 3. 「市民の山」、そして「歩行者優先」の実現を目指す

「散歩道」の周回コースの南側はドライブウェイで、歩道のない距離がかなりある。幼児連れの家族にはドライブウェイは危ないので、途中から引き返すことを勧めている。昭和初期の道路開発で歩道を設けなかったことが、今回の「散歩道」のネックになっていると痛感した。国立公園でありながら、「歩行者優先」が一貫していないことに恥ずかしくなる。六甲山の観光化には関心が注がれるが、概して市民の視線が欠けているように思われる。

当会は「市民の山」を掲げて六甲山への上山者を集める、つまり「使い手」に関心を注いできた。やがて地域環境保全の「担い手」へと変化した。小さな市民活動が、「使い手」と「担い手」の両面の参加を求める珍しい活動だ。六甲山の「使い手」を集めて、「担い手」を育てる活動は、意義が大きい。困難も多いが、地道に息長く活動を続けていきたい。